

東白石通信

東白石まちづくり実践会
とんぱくニュース
札幌市白石区本通13丁目南10-1
東白石まちづくりセンター内
TEL861-9262 FAX861-4369

年頭のご挨拶

東白石地区町内会連合会 会長 山中 忠典



新年明けましておめでとうございます。東白石地区の皆様、お変わりございませんか？皆様には、新しい年の一年間をどう過ごしていこうかと胸をときめかせていることと存じます。

令和4年もコロナ禍の一年ではなかったでしょうか。コロナも多少収まってきましたが、まだまだ思う様な活動が出来なかったと思います。東白石地区町内会連合会の中で、まちづくり実践会の東白石地区福祉のまち推進センターが知恵をしぼり、マスクや手指の消毒、そして密にならない工夫をしながら、お一人暮らしの高齢者と子供の交流の場を考え、孤独感をなくしていただきました。またパトロール隊は夜8時から徒歩のパトロール、そして自家用車による青色灯パトロールを実施して地域の安心・安全に貢献していただきました。これが令和4年の町連の活動状況であります。ご協力をいただいた会員の皆様に感謝の気持ちを伝えたいと思います。ありがとうございました。

令和5年は、昨年より穏やかな年になる様に、期待していきたいと思います。コロナに負けず、3年間も活動が出来なかった事業を皆様と思い切り活動していきたいと思っております。その折にはご協力をお願いいたします。

結びになりますが、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。

新年のご挨拶

東白石まちづくりセンター 所長 笹田 英一



新年明けましておめでとうございます。東白石地区の皆様におかれましては、健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、日頃より東白石地区のまちづくりにご尽力いただいておりますことに深く感謝申し上げます。

私が東白石まちづくりセンターの所長に着任してから9ヶ月が経過いたしました。これまで、いわゆる地域振興という業務に携わりたいと思いながら、なかなかその機会もなく、市税や開発許可の事務を長く勤めてまいりました。いざ、まちづくりセンターの所長に就くと、若いころからの念願が叶った一方で、まちづくりの第一線に赴くということについて、自分にできるのか、不安に感じていました。しかし、地域の皆様に温かく迎え入れていただき、今は毎日楽しくお仕事をさせていただいております。ご協力いただいている皆様に、この場をお借りして感謝申し上げます。

新型コロナウイルスの蔓延から丸3年となりますが、いまだに毎日多くの新規感染者が発生しています。今年こそは、現代の人たちが経験したことのない惨禍から抜け出せる兆しが現れることを期待し、この3年間、多くが中止・延期・縮小となってきた地域の活動が少しずつでも復活して、皆様の笑顔にお会いできることを、心からお祈りしています。

「にこにこサロン」の活動

にこにこサロン 常任委員長 佐々木 あゆみ

平成18年に、東白石まちづくり実践会の委員会として立ち上げ、毎月第2火曜日に本郷小学校のミニ児童会館を会場に開催している「にこにこサロン」は16年目になりました。

この3年はコロナ禍でサロンも何度か中止になりましたが、今年度はスタッフを少なくしたり、おもちゃを限定するなど対策をして、6月からは順調に開催しています。

毎週水・木・金曜日に東白石児童会館で開催しているサロンにも、親子の笑顔が戻ってきました。腹ばいで遊んでいた赤ちゃんが歩き始めた姿を見て喜び合ったり、お母さん同士が連絡先を交換しあったりする姿を見て、親子が交流できる場の大切さを感じています。これからも町内会連合会の女性部、日赤奉仕団、民生委員・児童委員の皆様をはじめ、一般ボランティアのご協力をいただきながら、地域の子育てを見守っていきたいと考えています。

子供好きな新しいボランティアさんの参加もお待ちしています。



▲にこにこサロンの風景

東白石安心安全パトロール隊の取り組み

東白石安心安全パトロール隊 常任委員長 辻 直則

この3年間、コロナ禍で町内会活動・まちづくり実践会活動の多くを自粛している中、パトロール活動は屋外活動であるということと135名の隊員の安心安全にかける強い思いで続けることが出来ました。活動は4月から11月まで徒歩は第1・3水曜日、青色灯装備車両は第2・4金曜日で、両方に参加いただいている隊員もあり、大変ありがたく思っております。

パトロールは異常がないか見て歩くことも大事ですが、パトロールをすることで犯罪の抑止効果と未然防止を狙うことがとても重要です。パトロール活動で白石区の防犯効果が高まっているといわれています。

これからも東白石安心安全パトロール隊を宜しくお願いいたします。



▲徒歩パトロールのひとコマ

「こらぼDEトンパーク」と「ふれあい友&愛」事業

こらぼDEトンパーク 常任委員長、東白石地区青少年育成委員会 会長 中村 昌彦

1 「こらぼDEトンパーク」は、東白石児童会館と栄通児童会館のスタッフ、東白石地区青少年育成委員会委員21名が共同で、子ども向けの行事を企画・運営しています。

行事名…ど〜りまつり、戸外遊び、七夕まつり、クリスマス会、森に学ぶキャンプ(夏)、昔遊び&もちつきにチャレンジ(冬)等

2 「ふれあい友&愛」は、東白石地区福祉のまち推進センターの委員が中心となって、地域に住む満75歳以上のお一人暮らしの方を対象に見守り活動や行事の企画・運営などを実践しています。

行事名…入浴ツアー、防災訓練への参加、個別友愛訪問(安否確認)、東白石小2年生・本郷小4年生との交流懇談会等。また、これらの行事ごとに案内するハガキによる交流(年5回、約700名宛)

各事業とも関係機関の協力を得て25年以上継続し、地域に受け入れられてきたと自負しておりますが、このコロナ禍におけるボランティア活動の困難さも痛感しています。



▲お年寄りと小学生の交流懇談会

東白石まちづくり実践会の活動

東白石まちづくり実践会は、5つの大きな柱のもと、地元町内会や地域の皆様と一緒に、安心して安全に暮らせて、楽しく子育てできるまちづくりを目指します。詳しくは東白石まちづくりセンターにお尋ねください。

東白石安心安全パトロール隊

- 夜間徒歩パトロール
- 夜間青色灯パトロール
4月～11月 各月2回

ふれあい友&愛

- ふれあい入浴ツアー
- お一人暮らしのお年寄りと小学生との懇談会
- 友愛訪問

にこにこサロン (地域主体の子育てサロン)

- 本郷小学校ミニ児童会館
毎月第2火曜日

こらぼDEトンパーク (児童会館と地域との連携)

- 森にまなぶ(キャンプ)
- 昔遊び&もちつきにチャレンジ

とんぱくニュース

- 広報誌「東白石通信」の発行

町内会訪問 「暁町内会」

令和4年度町内会活動

暁町内会 会長 柳本 稔 榮

コロナ禍の町内会活動も3年目を迎え、以前の様な新年交礼会や夏祭りといった皆様との飲食を伴った集いが行えず、残念な1年でした。

このような中で、当町内会は昨年「防犯カメラの設置」に重点的に取り組みました。当町内会域内では、ワイセツな行為や、犯罪者の逃亡経路となっている場があり、住民の皆様は不安を募らせています。

防犯カメラは、犯罪の未然防止や解決に有効で、安心して安全な地域作りの強化に繋がるもので、札幌市が推進している安全で安心な公共空間整備促進事業の「防犯カメラ設置補助金」を活用して設置するものです。防犯カメラの設置にあたっては、個人のプライバシーへの配慮、設置場所、管理運用、等を検討したうえで、会報や掲示でしっかりと周知し、臨時総会を開催して会員の皆様のご理解をいただきました。今年度のできるだけ早い時期に設置できるよう取り組んでまいります。



▲防犯カメラの設置にご賛同ください

町内会訪問 「本郷町内会」

「暮らし応援隊」の活動について

本郷町内会 会長 高林 榮市

当町内会は、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して、住民の方々の出会いの場やふれあいの機会を作り出す事業に取り組んできました。その一つが「暮らし応援隊」の活動です。

「暮らし応援隊」は、主に高齢の方々を対象に、暮らしの中のちょっとした困りごとをお手伝いするのが目的で、依頼を受けると、事前の下見をして、お互いの信頼関係が出来た上で、担当する役員や協力員の手に負える範囲の内容で引き受けています。できることは限られますが、皆様には喜んでいただいていますので、無理をしないで長く続けるために、実施に当たっては、細かい決まり事も設けています。対応が難しい依頼については他につなぎます。

苦労や困難もありますが、支えあう地域の実現を目指して地道な努力をしています。



白石区社会福祉協議会提供

アレフ追放に向けての活動

東白石地域オウム真理教(アレフ)対策住民協議会 事務局長 辻 直則

平成28年(2016年)7月15日の報道で札幌白石施設が出来ていることを知ってから6年が経過しました。その間、住民協議会を立ち上げ「オウム(アレフ)断固反対」の看板・懸垂幕を設置し、地域の皆様に「協議会ニュース」を通じてアレフの存在を知ってもらい、動向を監視し解散に向けた地域の意思を高めていきたいとの考えで活動をしております。

しかし、このコロナ禍にあつては、活動が大きく制限され、ここ3年間は協議会ニュースの発刊のみとなっております。また公安調査庁との意見交換会についても、令和元年10月を最後に行われておりません。(施設の立ち入り調査は定期的に行われています。)

他方、札幌白石施設を見ると、若者を中心にごく普通に出入りしております。施設内には麻原彰晃元教祖(松本智津夫元死刑囚)の写真を飾った祭壇があり、オウム真理教とアレフの教義が同じだと思わないのか不思議に思いますが、地下鉄サリン事件から27年が経ち、何も知らない若者が増えているようです。

アレフがオウムのようにならないためにも、地域が反対の声を上げ続けなければならないと考え、安心して暮らせる東白石のために、これからも監視を続けてまいります。



▲アレフ施設全景

東白石まちづくりセンターから

東白石まちづくりセンター 所長 笹田 英一

◎身近な存在、まちづくりセンター

区役所はどこにあってどのような業務を行っているか、皆様はお分かりかと思いますが、区役所の機構の一つとして、まちづくりセンター(まちセン)があるのをご存じでしょうか？

まちセンの業務の大きな柱は、町内会を中心とした地域の皆様の活動を支援したり、地域の課題の解決に向けて一緒に考えたり、必要な情報を提供することなどがありますが、もう一つ身近な業務として、諸証明の取り次ぎも行っています。

戸籍謄本や印鑑証明・マイナンバーの記載のない住民票は、区役所に行かなくてもまちセンの窓口(印鑑証明や住民票は電話も可)で受け付けています。交付が翌日午後になってしまいますが、混んでいる区役所の窓口に行かずに証明を取ることができますので、ぜひご利用ください。(住所移動や戸籍関係の届出は区役所になります。)

◎東白石会館で避難所運営訓練を実施しました

東白石地区では、毎年9月に万生公園で大規模な防火防災訓練を実施しています。ここ2年、新型コロナウイルス感染症により実施を見合わせてきましたが、今年は、白石区が実施している避難所運営事業を活用して、札幌市防災協会の方を講師にお迎えし、管内の町内会役員の方を対象に東白石会館で避難所運営訓練(HUG)を10月1日(土)に実施しました。

主に小中学校を利用する指定避難所(基幹)を補完するものとして、東白石会館のような地区会館や地区集会施設も指定避難所(地域)に位置づけられています。

そこで、当会館で避難所を開設する場合の判断や、限られたスペースでどう被災者を受け入れるのか、被災者がペットと一緒に来た場合は・・・などの事例を想定しながら、参加者で話し合い、避難所運営について学びました。

いざというときは、ご家族や地域の皆様で協力しながら助け合うということが大事になりますので、ご家族や地域の方と災害時の行動についてよく話し合い、非常時に備えていただければと思います。



▲図面を前に話し合う参加者

編集後記

コロナ禍と厳しい寒さの中で迎えた新しい年の初めに、東白石地区内の各町内会や各種団体が、少しでも日常を取り戻そうと工夫を凝らして活動してきた様子をお届けします。まだまだ予断を許さない状況にありますが、明るい未来を信じて、心を一つにして支え合い、前向きに進むための励みにしていただけると幸いです。